



# 頭上散水によるキクの高温対策技術を開発

— 少量多頻度の散水でキクの生育が向上します —

## 開発の背景・ニーズ

近年、キク栽培では、夏季の高温による開花遅延や生育不良が多発しています。高温対策には、ヒートポンプによる冷房やミストによる気化冷却が有効ですが、いずれも導入コストが高く、キクでの普及を妨げています。一方、頭上かん水装置はキクのかん水用に広く普及しています。

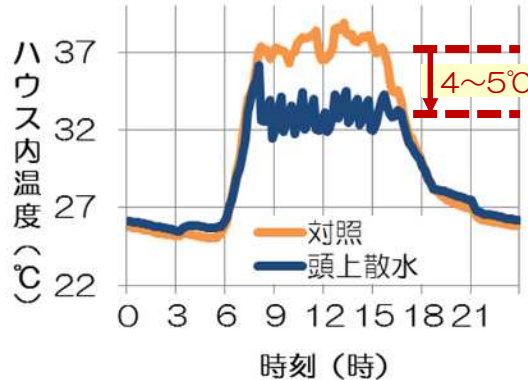
そこで、これを気化冷却に利用しようと考え、少量多頻度での頭上散水による高温対策技術の開発に取り組みました。

## 成果の内容

夏季の8～15時の間に頭上かん水装置を用いて少量多頻度（散水量：約1.5L/m<sup>2</sup>/日、散水頻度・時間：40分間隔で30秒～1分）で散水処理すると対照（少量多頻度の頭上散水処理無し）に比べ、キクのハウス内温度は4～5℃低下しました。頭上散水処理によって、キクの開花遅延が抑制され、草丈が伸び、切り花も重くなりました。キク品種には、高温によって葉に黄斑点が発生するものがありますが、頭上散水処理により、黄斑点の発生が大幅に抑制されました。



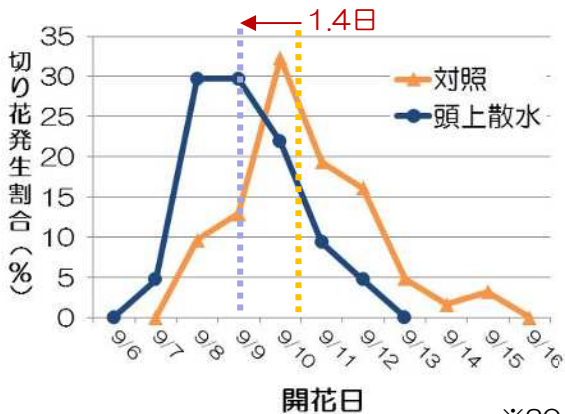
散水したキクハウス  
(スピネット赤色ノズル  
：散水量 2L/分/ノズル)



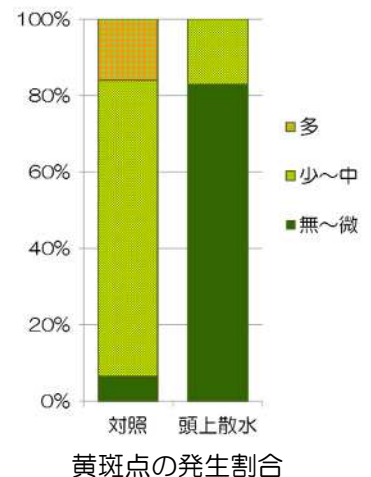
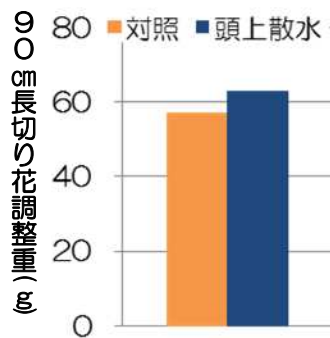
※2015年7月21日～8月17日の平均



黄斑点  
：中程度



※2015年9月開花作型 品種「スプレーアイチ夏1号」



## 愛知県農業への貢献

新たな投資を行うことなく既設の頭上かん水装置を利用する高温対策技術は、開花遅延の防止、生育促進、葉の黄斑点の発生抑制など、キクの生産性向上を図ることが期待できます。